



広島女学院同窓会 東京支部ニュース

編集・発行 東京支部役員会

2011. 6. 1
第 56 号

今年度の聖句 平和を実現する人は幸いである。 マタイによる福音書 5章9節

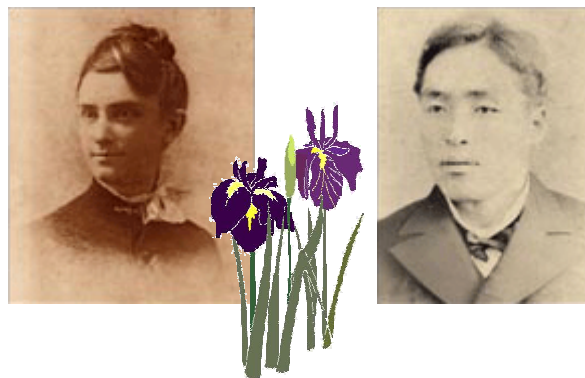
広島女学院創立 125 周年

支部長 坂下 恵 (杉田) 文英 1

今年は広島女学院の創立 125 周年に当たります。
創立者の砂本貞吉先生は、1863 年に己斐で生まれ、
17 歳の時に航海士を志してアメリカに渡られます。
そこで神学と英語を学ぶ機会を得、日本での女子教育の必要性に目覚めて、6 年後に帰国してからは牧師としてキリスト教の布教に尽力すると共に、アメリカ南メソジスト教会の協力を得て、1886 (明治 19) 年に私塾「広島女学会」を開かれます。

校母ナニ.B.ゲーンズ先生は、1860 年 4 月 23 日にアメリカのケンタッキー州で誕生されます。教師をされていた 27 歳の時に、教会関係の雑誌で W.R.ランバス博士が日本へ派遣する宣教師を求めていることを知り、志願して、1887 年に広島に来られます。その後、1889 年に初代校長となり、1932 年に 72 歳で召天されるまでの 45 年間を広島女学院のために捧げられました。アヤメの花をこよなく愛し、「みめぐみ豊けき主の手に引かれて、この世の旅路を歩むぞ嬉しき」と歌う讃美歌 294 番を愛唱されていたゲーンズ先生は、今、比治山の “Workers together with God” と記された墓碑の下で眠っていらっやいます。

1913 (大正 2) 年生まれ私の父は、旧制広島高校在学中にゲーンズ先生から英語を教えていただいたそうです。背が高く、黒い服に身を包まれていて、



男性のような印象を受けたと話しておりました。

颯爽と “Chest up” されたゲーンズ先生のお姿が目には浮かびます。

砂本先生が広島女学会を開かれたのも、ゲーンズ先生が遠路はるばる日本に来られたのも弱冠 20 歳の時です。125 年も前の若いお二人の大きな決断と献身があり、そしてその後、その精神を引き継いでこられた大勢の方々のお働きのお陰で、現在の広島女学院とそれに連なる私達があることを思い、感謝に堪えません。

関東ブロックでは、10 月 29 日 (土) に品川プリンスホテルで「創立 125 周年を祝う会」を開きます。詳細については別紙でご案内しておりますので、是非ご参加いただき、広島からいらして下さる大勢の先生方と共に皆さんで母校の繁栄を祝い、更なる発展を祈りましょう。

全国代表者会議

4月22日（金）に高校会議室で開かれた同窓会全国代表者会議に、関東ブロック代表で東京支部長の坂下 恵（杉田/文英 1）と神奈川支部役員の陣崎佳子（津田/高校 29）が出席しました。

開会礼拝では小田部三恵子先生から「創立 125 周年」と題するメッセージを頂き、続いて昨年度の報告と今年度の計画が承認されました。

その後、「創立 125 周年同窓生の集い」が 10 月 8 日（土）にゲインスチャペルで行われること、また、東日本大震災への義援金として同窓会本部と支部から合わせて 2,465,000 円を拠出するとの報告がありました。これには関東ブロックからの 10 万円も含まれ、大学からの義援金と合わせて、被災地に入って活動されている女学院理事の立野泰博氏に託し、支援の遅れている小さな子供達のケアに使われます。



引き続き、石井三恵 副学長（文日 12）から、来年度に予定されている大学の改組についての説明を伺いました。今年度の広島女学院は、幼稚園、中・高、大学とも定員以上の入学者があったものの、大学の英米文学科のみが定員割れしているとのこと。今後、他の学校との違いを出し、広島女学院を表に出すためのイベントが次々と予定されているとのことで、女学院のテーマソングができるというお話もありました。

終了後、小雨の降る中、校地内の原爆死没者慰霊碑の前で礼拝を行いました。



アイリスセンター（中高校地）

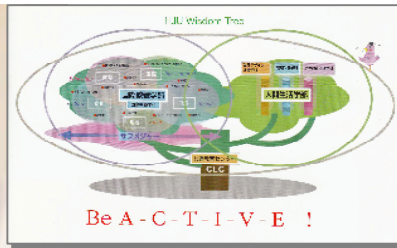
ホームカミングデー

ゲインス先生のお誕生日にあたる翌 4 月 23 日には、リーガロイヤルホテルでホームカミングデーが催されました。

今年のテーマは「心豊かにアクティブであれ」。同窓生の歌「どんなに時が流れても」で始まり、

古屋同窓会長のご挨拶の後、礼拝では、澤村雅史 大学宗教部長のメッセージ「さあ、共に生きよう」で、母の日とは母親に感謝するだけでなく平和を願う母の祈りと働きに連なろうとするための日であると教えて頂きました。





長尾ひろみ学長の講演「伝統の継承」では、「廣瀬ハマ子先生は神様とゲーンズ先生にピックアップされて女学院に連れてこられたように思えます」と、意外な紆余曲折のあった半生を紹介して下さり、長尾先生ご自身も廣瀬先生との不思議なご縁に導かれて母校に帰ってこられたと語られました。今年度から中央教育審議会の委員としてもご活躍ですが、来年度には大学を国際教養学部と人間生活学部の2学部へ改組されるとのこと。

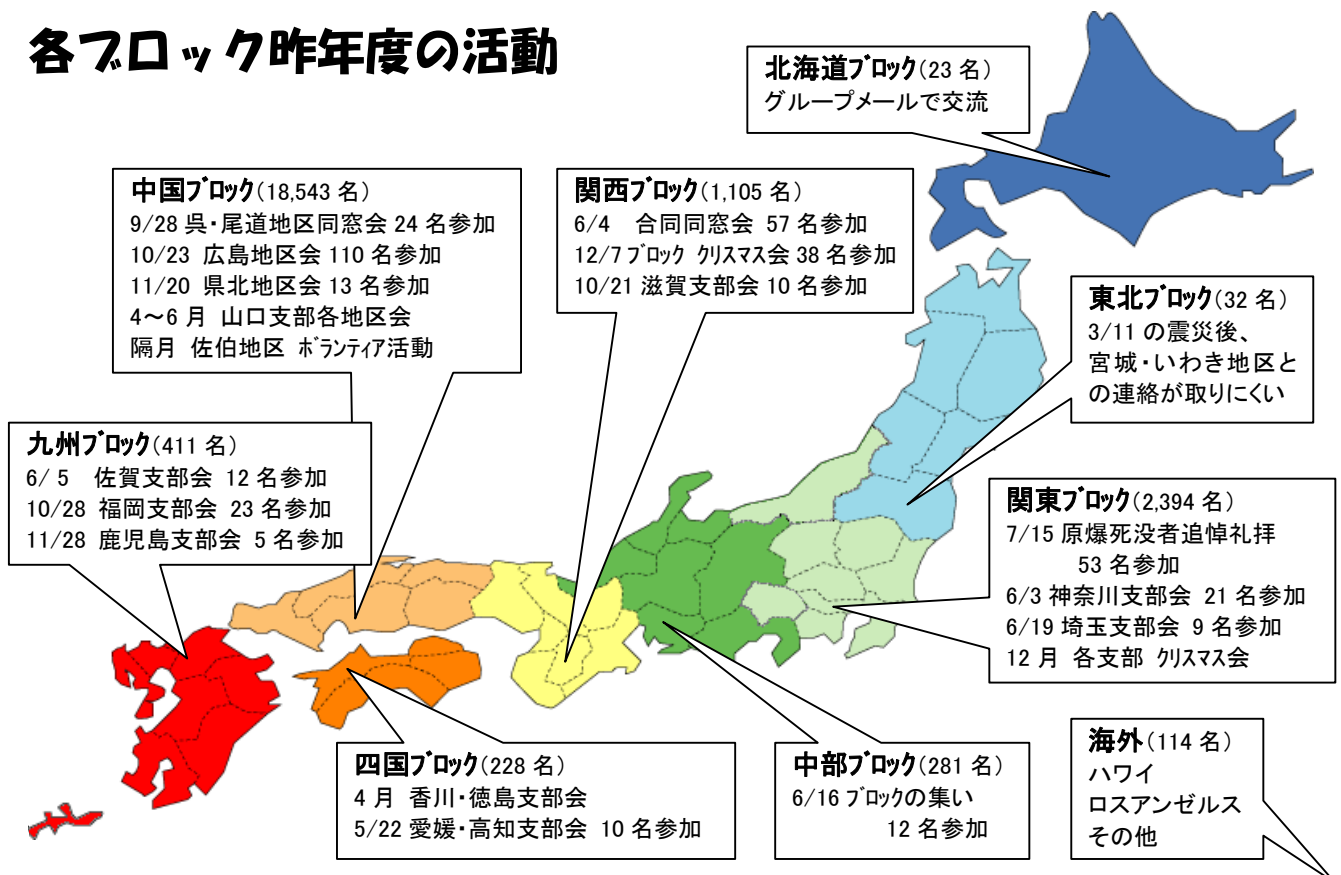
次の時代を担う Active、Creative、Tolerant、Intelligent、Voluntary、Elegant を兼ね備えた女性を育てたい、その見本を示していきたい、大学は変わります、皆さんの大学に戻します、ご支援をお願いします、と熱く語られました。

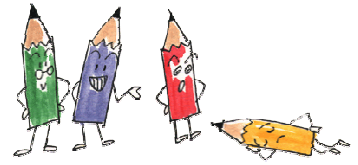
末永雅子さん（高校33）によるピアノ演奏でメンデルスゾーンとショパンを聴かせていただいた後、黒瀬真一郎理事長・院長の食前の祈り、星野晴夫中高校長の乾杯で会食となり、和やかな歓談の時はまたたく間に過ぎて、讃美歌と校歌を歌って閉会となりました。



太田ふじえ実行委員長 閉会挨拶

各ブロック昨年度の活動





Let's Join!

土井 寿子 (高 46)

みなさん、“Facebook”というツールをご存知でしょうか？インターネット(パソコンや携帯電話)でこのサイトに接続し、実名や個人情報を登録して、仲間との交流を深めることを目的に開発されたものです。同級生を探したり、趣味や地域情報の交換をすることもできます。



高校を卒業して17年、私達(1994年卒)が高校を卒業した時は、携帯電話はおろか、パソコンもまだまだ普及していない時だったので、大学の入学時には私達は日本全国に散らばり、特に海外に暮らす友人とは疎遠になっていました。

しかし最近、この文明の利器により、東京、静岡、名古屋、大阪、広島、奄美大島、そして時空を超えて、アメリカ、ドバイ、スペインに住む同級生23人と、再び繋がり始めています。

きっかけは東日本大震災。3月11日以降も余震が続く計画停電中の東京で、誰が始めるでもなく、なんとなく同級生と一人、また一人とつながっていきました。

この“Facebook”では、実名と自分の写真のほかに、日常で撮り集めた写真も色々と見ることが出来るので、遠く離れている友達に今すぐ会えなくても、近況の写真を見ることが出来、連絡が出

ることが一番の魅力です。

17年ぶりに写真で見る、女学院の制服姿しか知らない懐かしい同級生達は、みんな素敵な30代の女性に変わっていました。

例えば、バレー部でショートヘアで活躍していた同級生達が髪の長いオシャレな女性や仕事をバリバリ頑張るカッコいいキャリアウーマンになっていたり、テニス部で頑張っていた人が今や二児の母として子育て真っ盛りであったり、みんなを笑わせ周りを明るくしていた友達はいつのまにか遠いスペインで二児の母になっていたり、また英語が得意だった友達は、総合商社の第一線で働いていたり、子育てしながら仕事をがんばっていたり、またある者は、アメリカで結婚して出産したり、ドバイに住んで二児の母になっていたり、料理上手な素敵な母親になっていたり、また旦那さんと世界初のパクチー料理専門のレストランをやっていたり、リーダーシップをとってムードメーカーだった友達は静岡で起業をしているなど。

そんな同級生達と再び繋がるたびに、みんなで感動し、頑張っている姿に励まされ、勇気づけられ、一度は切れた繋がりが二度と離れることがないように大事にしながら、どんどん広がっていく「絆」を楽しんでいます。



今は、まだ23人ですが、いつの日か、一緒に女学院を卒業した250人全員と再び繋がり、私達の学年で大同窓会することが近い将来の夢です。きっと、私達の学年のノリと今の繋がりがあれば、

有言実行できると信じています。

みなさんも、“Facebook”で懐かしい女学院の仲間とつながりませんか？きっと、想像以上に感動し、盛り上がりますよ！

追伸：「ランランRUN部」の部員募集中！
最近では、17年ぶりに再会した同級生4人で、毎週土曜日の夕方に皇居の周りを走る「ランランRUN部」を始めました。高校の体育の授業以来、一緒に走っています。これを読んでいる方も、よかったら一緒に走りませんか？ちょっとダイエットしたい人、キツイのはイヤだけど、ゆっくり楽しく走りたい女学院の仲間、募集中です。



高校46回の有志の皆さんが10月29日の「創立125周年を祝う会」のために先生方のビデオレターを準備してくださっています。お楽しみに。



元中高教諭で大学院の卒業生として同窓生でもある沖田泰弘先生の礼拝のお話をまとめたものが、卒業生有志の手によって発行されました。「神のパンの宅配便」と題されたA5版の本は、お人柄が感じられる手書きの文字で綴られています。

「37年間、広島女学院の中学高校で英語を教えていましたが、停年後も朝の礼拝奉仕をつづけています。メッセージのパンを備えてくださるのは神さまで、ボクはそのパンの配達人です。5分の放送礼拝用の小さなパン80個を、神さまからアナタへの伝言として、お届けします。」
配達人 沖田泰弘

支部年会費納入のお願い

今年度(1～12月)の会費を納入されていない方に振替用紙を同封しております。会費納入にご協力ください。
手違いで用紙が入ってございました際にはご容赦ください。

80歳以上の方からは会費をいただ

かないと51号でお伝えしましたが、会費ぐらいいは納めますと言って下さる方もあるので、振替用紙を同封させていただいております。お気持ちがありましたら、よろしくお願いいたします。

若い方々も同窓会活動に参加しませんか。

高校46回生は、一昨年のクリスマス会に参加されたことから同期会開催につながり、今や、その輪が世界に広がっています。そんなきっかけを見つけてみましょう。まずは10月29日の「125周年を祝う会」にご参加ください。お待ちしております。

広島女学院125年の歩み

西暦	年号	歴 史
1886年	明治19年	10月、砂本貞吉牧師が米国南メソジスト教会宣教師J.W.ランバス博士の援助を得て、細工町に私塾広島女学会を開く
1887年	明治20年	10月、N.B.ゲーンズ宣教師が米国伝道局本部より派遣され教師となる
1889年	明治22年	N.B.ゲーンズが広島英和女学校の初代校長に就任
1890年	明治23年	10月、上幟町に校舎が完成し、移転開校
1891年	明治24年	台風と火災で校舎を失う
1892年	明治25年	新校舎落成(市内で唯一の洋風建築として評判となる)、幼稚園開設
1893年	明治26年	附属小学校を設置し予科・本科・高等普通科の一貫教育体制となる
1895年	明治28年	4月、保姆養成科発足
1908年	明治41年	5月、保姆養成科を保姆師範科と改称
1920年	大正 9年	専門部(英文科・家事科・師範科)を設置
1921年	大正10年	3月、保姆師範科がランバス女学院(現聖和大学)に移る
1932年	昭和7年	2月、専門部が広島女学院専門学校として認可される 財団法人広島女学院と改称、現在の盾型の校章制定
1942年	昭和17年	4月、校歌制定
1944年	昭和19年	学制変更により英文科・家庭科を閉鎖し経済科・保健科・被服科を設置
1945年	昭和20年	8月、原爆投下により教職員・生徒330余名の犠牲者を出し校舎も失う 10月、牛田国民学校の一部を借用して授業を再開
1946年	昭和21年	牛田校地に仮校舎を建て専門学校を移す 経済科を廃し英語科を復活
1947年	昭和22年	8月、上幟町校地に仮校舎と講堂、寄宿舎を建て、牛田校地より復帰
1948年	昭和23年	4月、新制高等学校発足(普通科、英語科、家庭科) 8月、高等学校木造校舎、東校地の西南側に建築
1949年	昭和24年	4月、英文科が広島女学院大学英文学部英文学科として認可され牛田校地で開学
1950年	昭和25年	4月、家事科・被服科が広島女学院大学短期大学部家政科として認可され開学
1951年	昭和26年	学校法人広島女学院となる
1952年	昭和27年	中学校の木造校舎竣工
1960年	昭和35年	大学本館落成 学院事務局が牛田校地に移る
1964年	昭和39年	1月、鉄筋四階建の高校校舎落成
1966年	昭和41年	4月、短期大学部家政科を家政科家政専攻と家政科食物専攻とに分離
1967年	昭和42年	4月、大学英文学部が文学部(日本文学科と英米文学科)へ改組
1972年	昭和47年	1月、上幟町西校地に中高の体育館、プールが落成
1981年	昭和56年	4月、短期大学部家政科に生活文化専攻課程を増設 家政・食物・生活文化の三専攻課程を実施
1983年	昭和58年	4月、ゲーンズ記念ホール竣工
1984年	昭和59年	7月、美術教室、中学ロッカー棟完成
1986年	昭和61年	9月、中学校庭藤棚「いこいの園」完成、 10月、創立100周年記念式挙行
1988年	昭和63年	3月、広島女学院歴史資料館竣工(牛田校地)
1990年	平成 2年	8月、中学校舎、中高図書館、事務室等東校地に竣工
1993年	平成 5年	4月、大学生生活科学部開設(文学部と2学部となる)
1995年	平成 7年	4月、大学院言語文化研究科修士課程(日本語文化専攻・英米言語文化専攻)開設
1997年	平成 9年	4月、大学院言語文化研究科博士課程(日本語文化専攻・英米言語文化専攻)開設 7月、アイリスセンター竣工
1999年	平成11年	4月、大学院人間生活学研究科修士課程(生活文化専攻・生活科学専攻)開設
2000年	平成12年	4月、大学文学部人間・社会文化学科開設
2004年	平成16年	4月、大学生生活科学部生活文化学科と生活科学科(食物栄養専攻・生活環境専攻)が 生活科学部生活デザイン・情報学科と管理栄養学科へ改組
2006年	平成18年	10月、創立120周年記念式挙行
2007年	平成19年	4月、大学文学部幼児教育心理学科開設(人間・社会文化学科募集停止)
2010年	平成22年	4月、高校新校舎竣工
2011年	平成23年	10月、創立125周年



「上野から泉岳寺」

白井京子（現・瀧口） 高23、文英5

あまりにも大きな悲しみや辛さに際しては、俳句を作ることは、私にとつては、なかなか難しいことだ。それが、このたびの東日本大震災でよく分かった。無論、その現場に足を踏み入れていないのだから、臨場感のある俳句など出来るはずもない。テレビで見た光景はとても恐ろしいものだったけれど、やはり画面を通したものだから。

あの日、私は、今年度から同窓会実行委員を引き受けてくれた同期の桜井（旧姓瀬川）さんと広島修道大学出身の落語家、古今亭菊丸の落語を聴く約束をしていた。昼のトリを務めるということで、四時頃の出番だからと、三時に上野の鈴木演芸場の前で待ち合わせをしていた。JR御徒町駅を出たところで地震が来た。目の前の吉池や上野松坂屋が揺れている。上から何かぱらぱらとかけらが落ちてくるし、水も落ちてくる。後ろはJRの高架。もしコレが、落ちたらと見上げるが、足が動かない。揺れが収まって、急いで鈴木演芸場の前に着くと、しゃがみこんでいる桜井さんを見つけた。地震は大の苦手という彼女と、どうするか迷った末に、せつかく来たのだからと演芸場の中へ。しかし、客席に座ってから大きな余震が来た。それを機にかなりのお客が出て行った。しかし、さすが落語家さんたち、地震の事を取り入れながら話をまとめ、菊丸さんも予定通りトリを務めたのを見届けて外に出た。電車が動かないことが分かったので、文京区在住の彼女と別れて、とにかく大田区の家に向かって歩き始めた。上野、秋葉原、神田、日本橋、京橋、銀座、新橋、浜松町、このあたりまで来て、あまりの寒さと空腹に、そこらのラーメン屋に入る。店内は暖かく、ラーメンもこんなに美味しいものかと、落ち着いたら御礼にまた食べに行きたいと思うほどだった。泉岳寺近くまで来たところで、都営浅草線が動き出すことが分かり、かなり待ったが、西馬込まで乗ることが出来て、五時半から五時間後の十時半に、ようやく家にたどり着いた。

先号の「同窓生の輪」でご紹介した福島いわき在住の根本尚恵さんのことを心配したが、後日、彼女から連絡があり、無事にいることが分かった。

彼女の自宅は、眼下に小名浜漁港を臨む風光明媚なところであったそうだ。広島から呼んで一緒に住んでいたお母様、ご家族みんなで、一時、広島に避難していたらしい。とにかく、無事でよかった。

震災の句、励ましの句の例句を載せようと思い、新聞など見て搜すが、意外にコレはというのがない。

北上を急げよ桜前線も 鷹羽狩行

励ますも励まざるも桜待つ 鍵和田袖子

みちのくの津波のあとのかぎろえる 白井薔薇

（かぎろひ：陽炎）

友人が、ミニFMのレディオ湘南にて毎週日曜夜八時から一時間、生放送で「音楽鍋」という番組を放送している。十五周年の記念番組に、詩の朗読ということで出演した。こんな時期だから、何か心休まる、ほっとするようなものをという番組からのリクエストで、出版社にも許可をいただき、もうすぐ百歳の柴田トヨさんの詩集「くじけないで」を読ませていただいた。家族や友達、周りの人たちにいつも感謝の気持ちを忘れず、風や温かい日差しをこよなく愛し、いつも前向きに、朝起きたら薄く口紅を引いて、トヨさんのように生きていこうと思う。その番組の最後に、「ふるさと」の歌詞を朗読して、曲をかけてもらった。

いかにいますちはは つつがなきや友がき

雨に風につけても おもいずるふるさと

こころざしを果たして いつの日にか帰らん

山は青きふるさと 水は清きふるさと

ふるさとを遠く離れた私たちにとって、なんと心にしみる詩であろうと、改めて、いい詩の朗読をさせていただき感謝している。

池田 瞳（吉本・専英27）さんから投句をいただきました。

恙なく生かされ傘寿枇杷は黄に 瞳

夕焼けは火の帯となり多摩河原 //

皆様からの投句をお待ちしています。

俳号

白井薔薇

しらいそうび
俳句結社「童子」同人、日本伝統俳句協会会員

テレビ東京「サブちゃん」と歌仲間」に出演中



関東ブロック主催 2011 夏雲の集い

～ 原爆死没者追悼礼拝 ～

2011 年 7 月 4 日 (月) 13:30～

日本基督教団 王子教会

東京都北区王子本町 1 丁目 19-2

JR 京浜東北線 王子駅北口 徒歩 10 分 (地図参照)

礼拝・説教：王子教会 大久保正禎牧師

シャンソン「HIROSHIMA」梅宮玲子さん (天野・高 24)

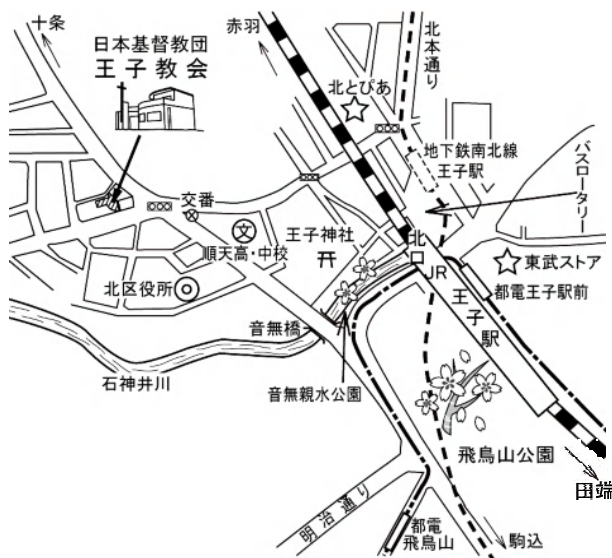
有志による合唱「アッシジの聖フランシスコによる 平和の祈り」

関東ブロックでは、母校の 350 名の犠牲を追悼し平和に向き合う集会として、故 秦知子先生の提唱による「夏雲の集い」を 1988 年から毎年開催してきました。

今年は高田三郎作曲の「アッシジの聖フランシスコによる 平和の祈り」を希望者で歌います。(昨年のクリスマス会のプログラムに楽譜の縮小コピーを入れました)。

6 月 29 日 (水) 10 時から 12 時まで王子教会で練習をします。楽譜をご希望の方、練習に参加ご希望の方は、坂下 (TEL/FAX 03-5386-0740) までご連絡下さい。

王子教会へのアクセス



シャンソン「HIROSHIMA」

梅宮玲子 (天野) 高 24

学生時代は、中高共に合唱部に所属して歌っていましたが、3年前からグループレッスンでシャンソンを始め、その後、中新井先生の元へ伺うことになりました。被爆二世として何かできる事はないかと考えていた時に、この「HIROSHIMA」と出会いました。72年にジョルジュ・ムスタキが作詞作曲したもので、76年に全国ツアーで共演された中新井先生は、「二世のあなたが、決して人間は愚かではないはずだ」というムスタキのメッセージと原爆犠牲者の想いを歌っていきなさい」との言葉と共に指導して下さいました。

この重い曲を皆さんに聞いていただける機会に恵まれたことを感謝いたします。

関東ブロック主催

広島女学院創立 125 周年を祝う会

2011 年 10 月 29 日 (土)

品川プリンスホテル メインタワー

広島から先生方も大勢いらしてくださいます。ビデオレターも予定しています。

別紙ご案内をご覧の上、誘い合わせてご参加ください。

～～～ 実行委員募集中 ～～～

広島女学院同窓会会員の皆様

2011年6月1日
広島女学院同窓会関東ブロック

関東ブロック主催「広島女学院創立 125 周年を祝う会」

同窓生の皆さまには健やかにお過ごしのこととお慶び申し上げます。

さて、本年は広島女学院創立 125 周年にあたります。砂本貞吉先生、ゲーンズ先生をはじめ母校の発展に尽くして来られた方々に感謝し、更なる発展を願って下記のように、関東ブロック主催「広島女学院創立 125 周年を祝う会」を開催いたします。

広島から、黒瀬理事長・院長、長尾学長、星野校長、片山美代子先生、古屋同窓会長、塩冶副会長もお迎えする予定です。ご出席いただけない先生方のビデオレターも高校 46 回生有志が用意を始めており、また、二次会会場もホテル内に準備する予定であります。先生方や同窓生との親交をさらに深め、意義ある一日を楽しくお過ごしいただきたいと存じます。どうぞ皆様お誘い合わせの上、ご参加ください。

記

日 時: 2011年10月29日(土) 12:00~15:00 (受付11:30~)

場 所: 品川プリンスホテル メインタワー

会 費: 8,000円

申込み: 9月15日(木)締め切り

同封の振替用紙で、お早めにお振り込み下さい。

支部年会費の用紙とお間違えのないよう、ご注意ください。

締め切り日前でも、先着150名に達した時点で締め切らせていただきます。

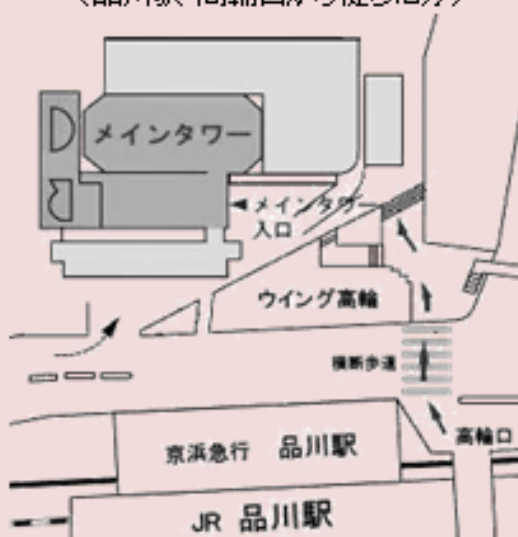
キャンセル締め切り: 10月15日(土)

払戻金は 4,000円とし、これ以降の払戻しはできませんのでご了承下さい。

以上

★ 品川プリンスホテル

(品川駅 高輪口から徒歩2分)



お問い合わせ

東京支部(坂下)
Tel/Fax 03-5386-0740

神奈川支部(梶川)
Tel/Fax 045-821-4342

千葉支部(村中)
Tel/Fax 043-266-3342

埼玉支部(清水)
Tel/Fax 049-261-0284